

## 2022年10月14日（金）～10月15日（土） 鬼怒沼湿原（2020m）&物見山（2113m）

2日目の朝は早い。

4時30分には起きだして、宿で準備してもらった朝食用のおにぎりを食べることにしました。外は未だまっ暗だが、どうやら晴れそうです。今年のクマさん会は天気恵まれている。

2日目：10月15日 土曜日 晴れ 鬼怒沼湿原&物見山へ



5時30分

堀さんの指南で柔軟体操を行ってから、  
加仁湯の宿を出発

こんな早くに出立する宿泊客は我々以外にはいなかった。計画では物見山までの往復に7時間をみている。12時過ぎには加仁湯に戻って汗を流したいので、早出となった。



加仁湯を横目に見ながら、日光澤温泉方面へ

大分明るくなってきた。



高度が上がってきた所為か、川沿いの紅葉も鮮やかになってきている。



10数分で日光澤温泉に到着

2年前に堀さん、池戸さん、中島さんの一行が利用した宿だ。



日光澤温泉の神様を祭る温泉神社

暫く鬼怒川沿いを歩いた。

山の上が湿原だけに、湿度が高いのだろうか？

登山道はぬかるんでいてところが多く、岩は苔むしていた。



6時10分頃、「ヒナタオソロシの滝」展望台の標識を過ぎた。「ヒナタ」は日向の意味とか。展望台までは少し登山道を外れるので、足を延ばさなかった。

6時40分に、「オロオソロシの滝」展望台に出た。

「オロ」は「日陰」のことだそうだ。ここで小休止をとった。



「オロオソロシの滝」展望台から滝を望む。



「オロオソロシの滝」遠望

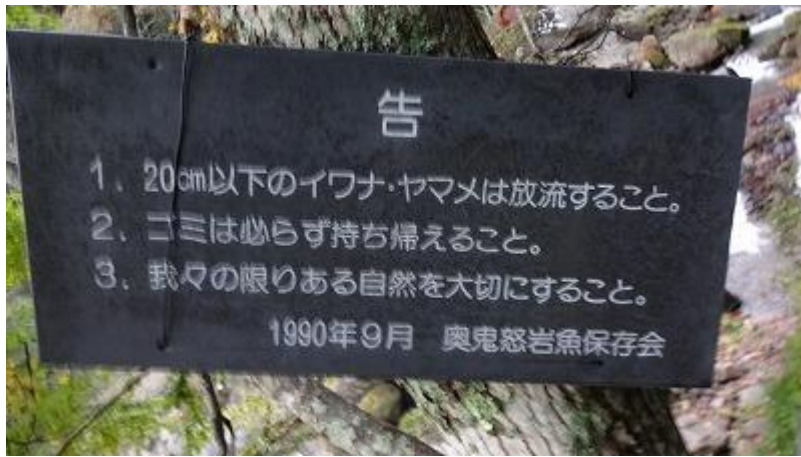
7時過ぎ、展望台を出発



階段左上にアンテナマーク  
所どころにこのマークがあつて携帯電話通  
話可能を教えてくれる。



鬼怒川上流は溪流釣りも盛んなようだ。こんな掲示（↓）も所どころにあった。



20cm以下のイワナ・ヤマメはリリースせよとの警告だ。

### 【閑話休題】海釣りの話

海洋資源の保存の観点から、現在は遊漁船でクロマグロを釣り上げても30Kg未満なら放流することになっている。クロマグロの稚魚であるメジマグロも釣れたら放流しなければならない。また、30Kg以上なら釣った実績を水産省へ報告が義務付けられている。資源保存のためには、なかなか厳しい規制がある。

岩には青苔がびっしり付いている。枯れ木には大きなキノコが生えていた。年間を通して湿度が高いのだろう。



8時15分  
鬼怒沼湿原南端に到着

\*登りは順調で計画よりも25分ほど早く着くことができた。この調子なら、加仁湯に12時ごろに戻れるだろうと思ったのだが・・・



湿原は一面の草紅葉

我々が到着時には、ほかに誰もいなかった。



湿原に植わっていた樹木には、同じ高さの位置から下に一切葉が付いていない。

冬の積雪が厳しくて、下部の芽が育ちきれないのかもしれない。



8時30分

鬼怒沼湿原北端のT字路に来た。

我々は左に折れて物見山を目指すことにした。30分ほどで山頂だ。

暫くすると・・・、先頭を歩いていた池戸さんが木道で滑ってこけた。傾斜のある濡れた木道は、最も危険だ。後ろに続いた3人は、細心の注意をして滑ることを免れた。クワバラ！くわばら！

\*もともと、ここで滑った池戸さんは何故かはずみがついて（?）、下りでは何回もコケる羽目になった。誰かが、「池戸コケ大王」と呼んでいた。

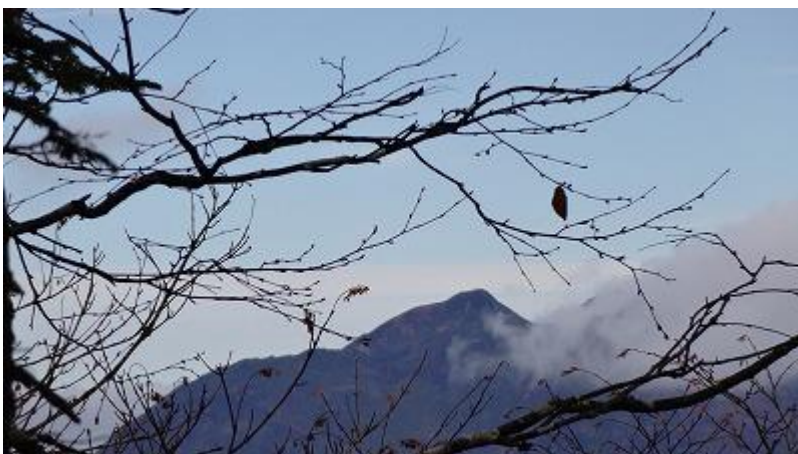
物見山への登山道は、あまり踏み固められてはいない。落葉も多くて気を付けないと滑る。



9時10分 物見山山頂（2113m）到着



物見山と言うくらいだから見晴らしが良いかと思っただが、背の高い針葉樹に覆われていて左程ではなかった。眼下に今来た湿原が少しだけ見えた。



一方、北西には双耳峰の燧ヶ岳が望めた。双耳の片方が雲に覆われていたのが、残念！



山頂で10分ほどのんびりして、湿原に向けて戻り始めた。

何とうれしや！！

下り始めて暫くすると、双耳峰がくっきりと見える燧ヶ岳が現れてくれた。

\*加仁湯の物知り職員によると、燧ヶ岳がハッキリ見えたら、その日の登山は百点満点なのだそうだ。

物見山から下って、再び湿原を散策



湿原を後にして、登りと同じ登山道を加仁湯に向けて下った。

計画よりも40分ほど早い下山開始で、12時には宿に戻るかもしれない。



何故か4人の会話が国際政治になってきた。最近の近隣諸国の振る舞いに対して悪口などを言っていたら、池戸さんが足を滑らせてこけた。悪口は止めて気持ちを足元に集中して下ることにしたが、その後も何度か池戸さんは足を滑らせた。「池戸コケ大王」の命名はその時付けられた。



登山道は湿り岩にはコケが付着していて、意外と歩きにくい。

加仁湯に12時到着を目指したのは、まずは先に汗を流して、生ビールで一杯やりながら昼飯を食おうと考えたからだ。その目論見は見事に外れた。むしろ、段々余裕が無くなってきた。

何しろ、12時50分まで着かないと、注文終了、したがって今度は昼飯を食うことも危うくなるからだ。



気持ちはやれども、足は進まず

11時40分

オロオソロシの滝展望台で息を整えた。

昨日から一段と紅葉は進んだようだった。寒さが厳しくなると、紅葉は日に日に見事になるそうだ。



紅葉をのんびり楽しんでばかりはおれなかった。

12時50分までに加仁湯に着かないと、昼食の注文受付が終わってしまう。田上さんと池戸さんに先行してもらうことにした。

堀さん、吉松は後を追った。





12時35分、日光澤温泉へ急ぐ

加仁湯へは、そこから更に10分かかる。

先行組の池戸さん、田上さんが4人分の「天ぷらそば」を注文してくれていた。

食事前に汗を流すことは出来なかったが、12時53分30秒、昼飯だけにはありつくことができた。堀さん、吉松も滑り込みセーフ！

「天ぷらそば」800円也、支払いは昨日もらったクーポンで済ませることができた。



昼飯さえ済ませてしまえば、あとは急ぐことは無い。

加仁湯の内湯で窓から紅葉を眺めながらのんびりと汗を流した。

14時15分、宿の物知り職員の運転で女夫淵温泉のバスターミナルまで送ってくれた。

物知りだけに、道すがら色々話をしてくれた。



バスターミナルのベンチで、15時25分発の路線バスを待つことにした。

バスは小型で、乗客は我々4人だけ



## 【最後にいくつかのエピソード】

\* 帰りは鬼怒川温泉駅 17時9分の列車に乗る計画でした。

路線バスは鬼怒川温泉駅前のバス停到着が17時ジャスト。万一のバスの遅れを心配した堀さん、田上さんは、一本遅い17時51分発の予約を取っていました。

池戸さんと吉松は、当初の計画通りの列車で帰るはずだったのですが・・・

池戸さんが事前に購入していた切符は、なんと！まったく予想もしなかった一本早い(?)時刻のものでした。こんなはずはない！変だ！と盛んに頭をひねって考え込みますが、今更がどうにもなりません。

「俺もボケが大分進んだ」とご本人談。

やむを得ず、池戸さんも堀、田上組と同じ列車を利用することになりました。

\* 堀さん、池戸さん、田上さんの3人は、列車に乗るまで40分ほどの余裕があり、生ビールでも飲んで寛ぐはずであった。らしいのですが・・・

今度は、田上さんが眼鏡を失くしたことが分かり愕然となり、ビールで寛ぐどころではなかったようです。宿に聞いてもわからない。路線バス会社にも問い合わせてもはっきりしない。本人はすっかり意気消沈！後ほど、バスの中に置き忘れていたとの連絡が入り、ひとまず目出度し、めでたし！

\* 吉松一人が計画通りの列車で帰ることになりました。

隣席には妙齢の女性が楚々として座っていました。遠慮して、キオスクで買った日本酒も飲まずじまいでした。車内で一献も出来ず寂しく帰宅いたしました。